

投資信託取引に関する注意事項

投資信託のお申込みに際しては、各ファンドの契約締結前交付書面(交付目論見書および補完書面)をよくお読みになり、契約内容およびリスク・手数料等をご理解のうえ、お客様ご自身の判断と責任においてお取引ください。

[全ファンド共通事項]

- ・投資信託は銀行預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。また、SMBC信託銀行で取扱う投資信託は金融商品仲介口座を通じた取扱いの場合を除き、投資者保護基金の対象ではありません。
- ・投資信託は、元本・利回りの保証はありません。

ファンドの運用に伴う主なリスク

価格変動・市場リスク ファンドの基準価額は、組入れた株式・債券等の値動きの影響により、投資元本を下回ることがあります。

信用リスク ファンドの基準価額は、組入れた株式・債券の発行者の経営・財務内容の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を下回ることがあります。

為替変動リスク ファンドが表示通貨以外の通貨建ての資産に投資する場合、投資対象証券と表示通貨との為替の変動により損失を被ることがあります。また、外貨建ての投資信託の場合、基準価額も外貨建てで表示されるため、外貨建てで元本を上回っていても為替の変動により円換算ベースでは、投資元本を下回ることがあります。

カントリーリスク 投資対象国・地域の政治、経済、社会情勢の変化により、市場が大きく動き、これにより投資元本を下回ることがあります。また、一般的に、投資対象先が新興諸国市場の場合には先進国市場への投資と比べ、より大きな価格の動きを伴います。

これらのリスクおよび損益は、お客様ご自身のご負担となります。

- ファンドの購入・換金にあたっては各種手数料等(申込手数料、信託財産留保額、条件付後払申込手数料等)がかかります。また、これらの手数料等とは別に信託・管理報酬、その他費用(監査報酬、信託事務諸費用、成功報酬等)がかかり、信託財産を通じてご負担いただきます。お客様にご負担いただく手数料はこれらを足し合わせた金額となりますが、これら手数料等はファンド毎に、また運用状況や保有期間等により異なるため、具体的な金額・計算方法を記載することができません。各ファンドの手数料等の詳細は、契約締結前交付書面(交付目論見書および補完書面)でご確認ください。
- 外貨建ての投資信託を円資金から該当通貨に交換したうえでお申込みの場合、別途、為替手数料が片道1円/往復2円(上限)がかかります。
- 米国税法上の米国人(米国市民、米国居住者またはグリーンカード保有者)は、居住・非居住にかかわらず投資信託の取引申込みができません。また、非居住者および当行への届出住所が日本国外のお客様についても同様となります。
- 契約締結前交付書面(交付目論見書および補完書面)は、当行の支店等でご用意しております。

商号等：株式会社SMBC信託銀行 登録金融機関 関東財務局長(登金)第653号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

No.1906

[プレスティア オンライン専用ファンドの注意事項]

- プレスティア オンライン専用ファンドは、購入および換金のお申込みをインターネットバンキングに限定しています。当行の支店・出張所およびプレスティアホン インベストメント(以下、支店等)での購入および換金に関するご相談およびお申込みは承っておりません。
- 支店等ではプレスティア オンライン専用ファンドの「契約締結前交付書面(交付目論見書および補完書面)」および、「販売用資料」等をご用意しておりません。ホームページおよびインターネットバンキングでご確認いただけます。

No.2103

概要

- ✓ 米国長期金利は目先高止まり、来年以降にかけて低下の可能性も
- ✓ 米国社債市場における信用スプレッドは長期平均並みに
- ✓ ジャナス・セレクション 債券ファンドの現状と今後の見通し

今年に入ってから、ウクライナ情勢を受けたインフレ率の高まりと、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締め見通しの変化などから米国金利は歴史的な急騰を記録しました。米国長期金利は昨年末1.51%であったものが、2022年6月中旬には一時3.40%を超える水準まで大幅に上昇し、国債、社債ともに債券価格は下落しました。米国債券市場とジャナス・セレクションの債券ファンドについて、足元の環境と今後の見通しを解説します。

米国長期金利は目先高止まり、来年以降にかけて低下の可能性も

年初来、様々な不透明要因が取り巻く中、米国長期金利上昇幅は1.9%を超える水準を記録しました。多くの投資家が経験したことのない金利上昇に見舞われていますが、ここからさらなる大幅な金利上昇は見込みづらく、来年以降にかけて景気減速とともに低下していく可能性もあると考えています。

さらなる大幅な金利上昇は見込みづらいと考える3つの理由

①FRBの利上げ、バランスシート縮小（QT）は織り込みが進む

FRBは今年に入り、インフレ抑え込みのため、利上げ見通しをより積極的な姿勢へと変化させました。6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、実に27年ぶりの0.75%の利上げを決定しました。また、QTについては、2022年6月から開始しており、2022年9月からは縮小のペースを加速させる予定です。市場が想定する1年後の政策金利は足元3.7%の水準まで到達しており、FRBによる今後の金融引き締めはある程度織り込みが進んでいます。

金融引き締めの加速は金利上昇要因となりますが、市場では、これらの政策の織り込みが進んでいることから、さらなる大幅な金利上昇は見込みづらいと考えています。

市場で織り込まれている1年後の政策金利水準



出所：ブルームバーグのデータに基づきジャナス・ヘンダーソン作成
※データは2022年6月21日時点

②インフレはピークアウトの見通し

米国のインフレ率は未だ高止まりしていますが、今後はこの数値は徐々に落ち着いていくと考えられます。

現在の高いインフレ率は①コロナ明け後の旺盛な米国個人消費、②コロナ対応のための行動制限による供給不足、③原油など資源価格の高騰が主な要因となっていますが、今後少なくとも①の要因は景気減速とともに薄れ、②の行動制限も世界的に解除の方向に向かっているためです。

足元の金利上昇については、インフレ率の高まりが大きな要因の1つであると考えられますが、現在の高いインフレ率がピークアウトすることによって、米国長期金利も低下していくものと思われます。

③“金利上昇”と“地政学リスク”により米国債の需要が回帰

足元の金利上昇を受けて米国債券の魅力度は改善しています。また、ロシア-ウクライナ戦争による地政学リスクの高まりを受けて、安全資産としても、米国債の需要は一定程度継続していくものと思われます。

米国社債市場における信用スプレッドは長期平均並みに

米国金利の急上昇に加えて、米国社債市場においては信用スプレッドの拡大も見られました。発行体企業の信用力を表す信用スプレッドの拡大は、社債価格の下落要因となります。

コロナ禍における政府による米国企業への支援策により、米国社債の信用スプレッドは歴史的に低位な水準まで縮小していました。足元の拡大を受けてその水準は長期平均並みとなり、一部で見られていた割高感は後退しています。金利上昇によって利回りも改善しており、今後投資家からの新たな需要が見込まれることから、信用スプレッドの大幅な拡大の可能性は低いものと思われます。

また、信用スプレッドは拡大しているものの、依然として企業業績は堅調さを維持しており、米国企業の今年の業績見通しは年初に想定されていたものより若干の上方修正が見られます。健全な財務体質の下、昨年同様に企業のデフォルト率は過去最低水準となっています。

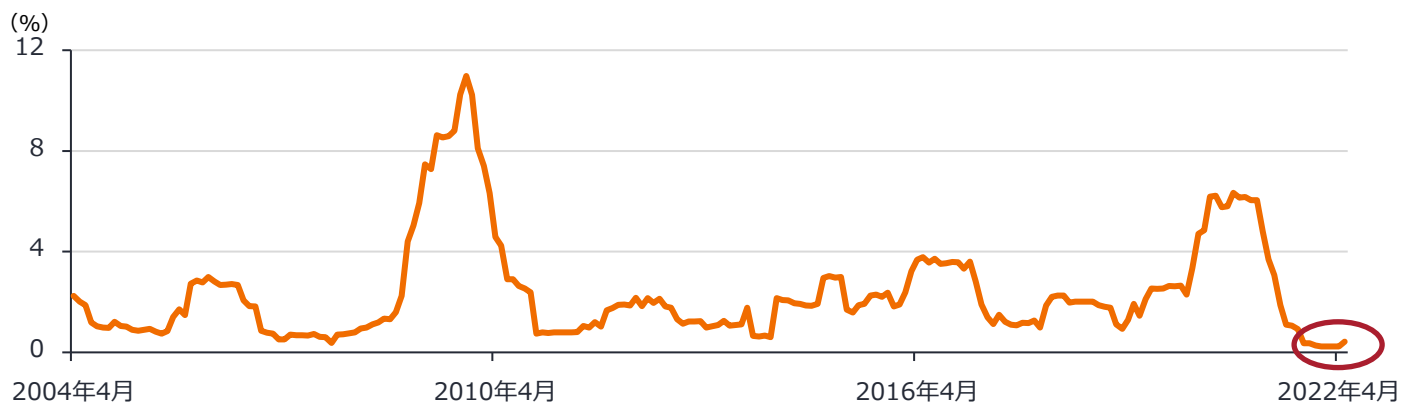
一方、インフレ率のさらなる上昇が社債発行体企業の業績に悪影響を与える可能性もあり、短期的には市場の変動が高まることは予想されます。そのような環境下では、より健全な企業を慎重に選定し、質の高い社債を割安に購入することが大切です。

米国社債の信用スプレッド水準



出所：ブルームバーグのデータに基づきジャナス・ヘンダーソン作成
米国社債：ブルームバーグ米国投資適格社債インデックス
期間：1997年2月末～2022年5月末

米国企業のデフォルト率の推移（非投資適格）



出所：JPモルガンのデータに基づきジャナス・ヘンダーソン作成
期間：2004年4月末～2022年5月末

ジャナス・セレクション 債券ファンドの現状と今後の見通し

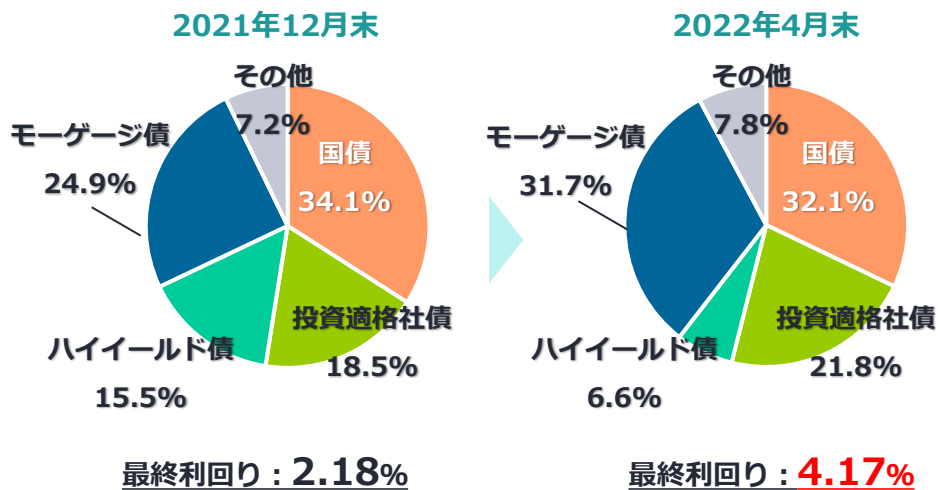
ジャナス・フレキシブル・インカム・ファンド

ジャナス・フレキシブル・インカム・ファンドの年初来のパフォーマンスは▲12.62%*となっています。金利の上昇、信用スプレッドの拡大から幅広いセクターの債券が下落する形となり、当ファンドもマイナスリターンとなりました。

年初来、金利上昇による影響を抑えるために、ポートフォリオ全体のデュレーション（金利感応度）の短期化と様々なリスク要因に備えて社債比率を低めに抑えており、保守的な運用を行ってきました。一方で、当社としては米国債券の魅力度は足元高まっていると考えており、今後はインフレ動向や地政学リスク、経済活動の再開状況などを見極めながらリターンの獲得を目指していきます。

当ファンドの投資方針は、引き続き、リスクに備えて元本保全を目的とした保守的な投資スタンスに変わりはありません。しかし、米国債券市場において魅力的な投資機会は今後増えていくものと考えています。当社の強みであるボトムアップ・アプローチによってそうした魅力的な投資機会の発掘を行ってまいります。

当ファンドの年初来の資産構成比の変化



- リスクに備えハイイールド債の比率は減少させつつ、より質の高い高格付け企業を選定。
- 保守的な運用を維持しながら魅力的な投資機会の発掘を継続しており、最終利回りは魅力的な水準に。

ジャナス・マルチセクター・インカム・ファンド

ジャナス・マルチセクター・インカム・ファンドの年初来のパフォーマンスは▲11.47%*となっています。当ファンドの特徴である、リスク局面に備えた柔軟な運用方針の下、相対的な下落幅は抑えられています。

具体的に、当ファンドでは利回りの高い債券や変動金利型債券の保有をしていたことで年初来の金利上昇への対応を行ってきました。

利回りの高い債券は高いインカム収入が金利上昇時に価格下落のクッションとしての役割を果たします。また、一般的に変動金利型債券は金利変動の影響が債券価格ではなく利息収入に反映されるため、金利上昇の影響を抑えることが可能です。投資環境を見極め最適な種類の債券に資産配分を行うことで、あらゆる環境においてリターンを向上させることが可能となります。

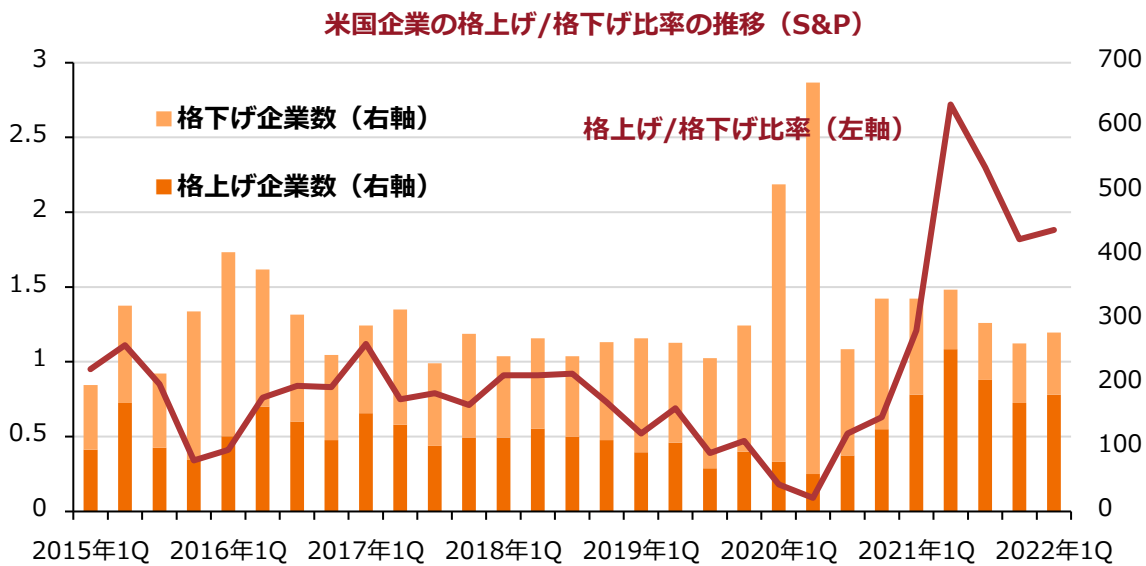
引き続き市場にはリスク要因が残り、一時的な変動の高まりが予想されます。そのような環境こそ、様々な種類の債券に目を向けて柔軟な投資行動が必要となります。当ファンドでは、引き続き柔軟な資産配分によって様々な投資環境に対応することを目指します。

ジャナス・ハイールド・ファンド

ジャナス・ハイールド・ファンドの年初来のパフォーマンスは▲15.75%*となっています。ハイールド債券市場においては信用スプレッドの拡大幅が相対的に大きく、その分基準価額の下落幅も大きくなっています。

しかし、今後ハイールド市場では魅力的な投資機会を得ることが可能であると当社は考えています。

年初来の信用スプレッド拡大により、割高感のあったバリュエーションは現在魅力的な水準となっています。また、新規発行件数が予想を下回っていることに加え、企業の財務状況が健全であり、コロナ禍以降格上げ銘柄が増加していることが、需給面での下支えとなると見ています。



出所：ブルームバーグのデータに基づきジャナス・ヘンダーソン作成
期間：2015年第1四半期～2022年第1四半期

脚注

* ファンドのパフォーマンスは全て年初来2022年6月17日時点のもの。管理報酬等控除後。米ドル建。

(コメント提供元：ジャナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシー)

ジャナス・セレクション各サブファンドに係る費用

お客様に直接ご負担いただく費用

クラスA受益証券	
申込手数料	サブファンドごとに、3.30% (税込) *を上限として、販売会社または販売取扱会社がそれぞれ定める料率となります。
換金 (買戻し) 手数料	原則としてかかりません。

*上記は当資料作成時点の税率に基づくものです。なお、税法が改正された場合には、税率等が変更される場合があります。

お客様に間接的にご負担いただく費用

クラスA受益証券	管理報酬等*	
ジャナス・フレキシブル・インカム・ファンド	年率1.20%	* 管理報酬等は該当するサブファンドの純資産総額に対し、左記の料率を上限として計算されます。管理報酬等には、管理会社報酬、受益者サービス報酬、代行協会員報酬のほか、アンダーライニング・ファンドの資産から支払われる投資顧問報酬ならびにその他報酬および費用等も含まれます。
ジャナス・マルチセクター・インカム・ファンド	年率1.53%	
ジャナス・ハイイールド・ファンド	年率1.55%	
ジャナス・バランス・ファンド	年率1.85%	
ジャナス・ストラテジック・バリュース・ファンド	年率1.98%	
ジャナス・フォーティ・ファンド	年率1.98%	
ジャナス・グローバル・ライフサイエンス・ファンド	年率1.98%	
ジャナス・グローバル・リアルエステート・ファンド	年率1.98%	

● その他の手数料等

保管受託会社の報酬、管理事務代行会社の報酬、名義書換代理人の報酬、その他費用、アンダーライニング・ファンドの費用

上記手数料、報酬および費用等は、それぞれ算出方法が異なるほか、投資家の皆様がサブファンドを保有される期間に応じて異なるため、これらを合計した料率もしくは上限等を表示することができません。詳細は投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

リスクについて

投資信託のお申込みに際しては、投資信託説明書 (交付目論見書) 等をよくお読みになり、契約内容およびリスク・手数料等をご理解いただいたうえで、お客様ご自身の判断と責任においてお取引ください。

ジャナス・セレクション各サブファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンドの各サブファンド (以下、「アンダーライニング・ファンド」) への投資を通して様々な証券に投資するため、1口当たりの純資産価格が変動し、取得時の価格を下回る場合もあります。従って、ジャナス・セレクション各サブファンドへの投資は、下記のようなリスクが伴います。なお、ジャナス・セレクションのリスクは下記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書 (交付目論見書) に記載する「投資リスク」を十分お読みください。

当ファンド (ジャナス・セレクション) の主なリスク

証券に投資することのリスク、為替リスク

※ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定 (いわゆるクーリング・オフ) の適用はありません。

アンダーライニング・ファンドの主なリスク

ハイイールド証券に関するリスク、流動性リスク、小型証券に関連するリスク、投資の集中に関するリスク、業界リスク、REITおよび不動産関連企業に関するリスク、金利リスクおよび信用リスク

収益分配金に関する留意事項

投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、受益証券1口当たり純資産価格は下がります。

一般的に、分配金が分配期間中に発生した収益 (配当等収益、評価益および実現した純譲渡益の合計をいい、以下「期中収益」といいます。) を超えて支払われる場合、当分配日の受益証券1口当たり純資産価格は前分配日と比べて下落することになります。ただし、分配を行う当ファンドの各サブファンドについては、分配可能な金額は期中収益のうち、配当等収益、場合によっては実現した純譲渡益であり、かかる収益を超えて分配金が支払われることはありません。また、分配金の水準は、必ずしも分配期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

